

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

皆さんお揃いではないんですけれども、定刻となりましたので始めさせていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。復興支援・伝承課の渡邊でございます。どうぞよろしくお願いいたします。まず開会に先立ちまして、昨年度の12月に開催を予定していた全体会と部会について、開催できずに誠に申し訳ございませんでした。詳細につきましては、後ほどご説明申し上げたいと思います。また、事前の案内とお願いがございます。県内の震災伝承活動における課題共有のため、本日のコンソーシアムの様子を記事と写真で公開させていただきます。公開方法につきましては、後ほどご説明させていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。また、本日マスコミの方も取材したいということで入っておりますので、そちらもご了承くださいたいと思います。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 夏目）：

それでは、ただ今より令和8年度第1回震災伝承コンソーシアム全体会と部会を開催いたします。本日、司会を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。初めに、事務局である宮城県復興支援・伝承課長から一言ご挨拶申し上げます。

復興支援・伝承課長（乗田）： 皆さん、こんにちは。

一同： こんにちは。

復興支援・伝承課長（乗田）：

宮城県復興支援伝承課長の乗田と申します。令和8年度第1回目の震災伝承コンソーシアム全体会および部会の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。本日は危険な暑さの中、かつお忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。また、日頃から宮城県の震災伝承施策に対し、多大なるご理解とご協力をいただき、感謝を申し上げます。宮城県では、令和3年の4月に「東日本大震災の記憶と教訓の伝承に関する基本方針」を策定し、その中で「多様な連携による伝承の促進」を進めていくこととしております。このコンソーシアムは、「多様な連携による伝承の促進」による持続的な震災伝承を進めるため、関係団体が緩やかに連携し、一丸となった震災伝承の取り組みにつなげることを目指して、令和4年度の9月9日に設立され、今年度で5年目を迎えます。本日の会合では、コンソーシアムの今後のあり方についても議題としており、皆様にご検討をいただきたいと思います。どうか忌憚のないご意見を頂戴したいと考えております。震災から15年が経過しましたが、県といたしましては、皆様と一層連携を深めながら、一体となって震災伝承に取り組めればと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 夏目）：

それでは、次第に基づき、事務局から説明させていただきます。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

資料1をご覧ください。まず資料1の1、活動内容の公表・情報発信についてご説明いたします。現在のホームページでは、会議録を公開しておらず、成果や課題が見えない、どのような話をしたかが分からないという意見を、外部の方も含めていただいておりますので、これらに見える形にして発信してまいりたいと考えております。今回の会議につきましても、議事内容を積極的に公表していきたいと考えておりますので、ご意見を頂戴できればと思います。資料1の1『議事録の公開方法の検討』をご覧ください。コンソーシアムの活動内容については、会議資料などの概要のみホームページにおいて公開を行っておりますが、今回、議事録の掲載方法を検討するにあたり整理した資料となります。例とい

たしまして、令和7年度の第1回情報発信部会の議事録を用いて、2つの案をご提案させていただきます。案1は、発言者を匿名、発言内容詳細の方式です。発言者の氏名を掲載しない形で、会議で出された意見をできるだけ詳細に記載する方法です。会議でどのような議論が行われたかを具体的に伝えることができますが、一方で発言内容によっては発言者が推測される可能性を持っています。案2につきましては、発言内容要約の方式です。個々の発言を掲載するのではなく、会議全体として出された意見を項目ごとに整理・要約して掲載する方法となっております。内容は簡潔になりますが、誰がどのような発言をしたかが分かりにくくなるため、率直な意見交換を行いやすいというメリットがあると考えております。事務局といたしましては、コンソーシアムにおいて自由に意見交換をしていただくことを重視したいと考えておりますので、公開にあたりましては、案2のような要約形式が良いのではないかと考えております。今回の議事録について、そちらの公開方法がよろしいか、ご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。どなたかご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

ご丁寧ありがとうございます。議事録は詳細版と要約版と、せっかくなら両方作った方がいいんじゃないかと思います。基本的には、録音していれば普通の議事録は作れると思いますので、そこから要約はすぐできるんじゃないかと思われますので、その方がいいんじゃないでしょうか。公開方法については、県で考えればいいんじゃないですかね。以上です。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

ありがとうございます。共有ということでは、皆様に議事録の方は詳細版、要約版どちらも共有させていただいて、ホームページの方は県の方にお任せいただけるという案を今いただきましたが、他の皆様でご意見をお持ちの方はいらっしゃいますでしょうか。

伊藤（南三陸ひと tomoni）：

お疲れ様です。説明ありがとうございます。最後の点についてですが、概要版はもちろん、要約版として見やすく分かりやすくすると同時に、この会議で誰がどんな発言をしたか、もっと詳しく知りたいという資料もやはり必要ですので、両面からデータとしてしっかり保存等していただいて、公開するかしないかはまた検討課題かなと思っております。以上です。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）： ありがとうございます。中川さんお願いします。

中川（3.11 メモリアルネットワーク）：

はい、3.11 メモリアルネットワークの中川です。本日は機会をいただきありがとうございます。課長様からも一丸となってというご挨拶をいただいたのですが、やはり立場が違うので色々な意見がある中で、どういう風にしていったらいいのかが、我々、例えば次の世代にとっても、他の地域や被災地にとっても参考になるように、こんな風に悩んでこんな発言があって今この形があるんだということを、皆様に知っていただくという意味でも、私は誰が喋ったかお名前付きで公開してもいいくらいだと思っております。誰々が、例えば3.11 メモリアルネットワークの中川がいつも理念にばかりこだわってこうしようと言った、そのこと自体がしっかり残ることが大切です。例えば、宮城県さんの『みやぎ震災伝承館』の有識者委員会では、誰々委員が何々という発言をしたと、しっかりと宮城県さんのサイトに公開されています。これと同じように、どの団体の誰々がこういう意見を言ったかというところまで、私は公開してもいいとまで思っております。最終的に決められるのは宮城県さんだという理解でありますが、宮城県さんの先ほどの『自由な意見交換を促進したいので案2が良い』というのはちょっと違うのではないかと思います。記録が残るからこそ、責任を持った意見交換を促すという意味で、私は記名の方が良いと考えますので、よろしくお願いいたします。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：他にご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

石森（3.11 伝承ロード推進機構）：

ご説明ありがとうございます。3.11 伝承ロード推進機構の石森です。こちらに関しては、公開するかしないかというところを重点的に今聞いていらっしゃるということでよろしいでしょうか。全面的にこの案2の方を1面にバツと出しておいて、詳細を知りたい場合は、両方を並列して載せるような、そういった形で見せてもらえれば、『ここはどのような団体と活動しているところなのだろう』と興味が湧いた時にバツとこれを見て、中身で何を話したかを見ることもできますし、またそれを見ることによって、コンソーシアムに参加する方が増えるのであれば、そういった公開方法が良いのかなと思います。名前を明記するかしないかについては、確かに中川さんがおっしゃっていたように、会議録などでは誰が発言しているかが本当に細かく書かれているのですが、こちらで名前を公表するかどうかは、私は判断しかねるところではあります。以上です。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

その他の皆様のご意見はいかがでしょうか。ちなみに、本日ご参加いただいている皆さんの中で、『ちょっと名前を出したくないな』という方はいらっしゃいますか？もし、いらっしゃらないようでしたら、今回の会議録は皆様に事前にご了承いただいておりますので、要約版を1枚目にして、詳細はこちらという形にしてどなたが発言したかも分かるような形で公表をさせていただければと思いますので、ご了承いただければと思います。よろしいでしょうか？

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

ありがとうございます。反対意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。今言っていた内容で残ってしまいますけれどもよろしいですか？ありがとうございます。では、そのような形で進めさせていただきます。また、これまでの会議録につきましては、発言いただいた方の了承をいただく関係で、発言いただいた方に特に支障がないかも確認した上で、掲載を進めていきたいと思いますので、ご了承いただければと思います。

では、次に移らせていただきます。続きまして、資料1の2『震災伝承ポータルサイトの検討状況』をご覧ください。県において、震災伝承に関するポータルサイトの構築を検討しており、コンテンツの内容と構築方法について、記載の通りと考えております。これにつきましては、本日の情報発信部会において検討を進めていきたいと考えております。ポータルサイトに関しましては、来年度の運用開始に向けて取り組んでいるところです。それまでの間、既存のホームページやSNSを活用した情報発信の強化に取り組んでまいりたいと考えております。現在、こちらは県のホームページを公開しているものではなくて、このような形に変えたいということで案を提示させていただいております。これまで、ページが長すぎて見づらい、下までスクロールするのが面倒くさいというようなご意見もありましたので、ボタンという形で伝承団体と分けまして、そこをクリックするとそれぞれのタイトルに飛ぶような形を考えております。現在、主な伝承活動として、団体名、主な活動内容ということで、これまでPDFで掲載していたものをページの方に持ってきて、そこからリンクを貼れる形にしているのですが、その中で、一番右の主な伝承活動の内容が、皆様の書いている内容がバラバラでして、少し読みづらさが出てきている状況となっております。活動を簡単に紹介するのが難しい場合もございますが、ただ長いと閲覧される方が読み疲れてしまうということもございますので、これに関しては文字数制限を設けさせていただき、皆様ご自身で活動をまとめていただいて、3行程度でお願いできればと思っております。一番下にサンプルとして今78文字でこのくらいまで来るというものをを出しているのですが、100文字程度あればいいかなと思っております。その程度で、入り口という形で皆様の活動に興味を持っていただく、あるいは『こういう活動をしています』という簡単なご説明をしていただいて、『ここをちょっと見てみようかな』とクリックしていただくような形で、皆様の活動をご紹介したいと考えております。これに関しましては、伝承団体以外の、例えば大学や報道機関、企業、国や町という形になっておりまし

て、詳細をご紹介するのは伝承団体さんだけとなってしまうのですが、こちらの形でリンクを貼って、皆様のページに飛んでいただく形をとっていきたいと考えております。一部の団体さんで SNS を持っていないというところもございますので、そちらに関しましては、その団体さんとのような形で公開していくかをご相談したいと思います。こちらの記載内容を含めて、皆様にご意見をお伺いできればと思っております。合わせまして、みやぎ東日本大震災津波伝承館のページの改修イメージとなります。ご紹介の中に、県内の伝承団体等ということで、先ほどのボタンを付けさせていただき、こちらをクリックすると先ほどのページで皆様の活動をご案内するような形を取らせていただきたいと思いますと考えております。続きまして、資料 1 の 3『伝承活動の情報発信』についてご覧ください。こちらが、県の SNS を活用した情報発信について整理した資料となります。県では『いまを発信！復興みやぎ』や『みやぎ東日本大震災津波伝承館』の SNS を活用して、震災伝承や復興に関する様々な情報を発信しているところです。各団体の皆様で実施されている講話や企画展、イベントなどにつきましても、写真やチラシのデータ、紹介文などをご提供いただくことで、県の SNS を通じた情報発信のお手伝いが可能となっております。また、伝承施設におかれましては、施設のご紹介や集客についても同様に協力できますので、ぜひ積極的にご活用いただければと思います。ぜひフォロワー登録の方もお願いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。これまでの説明の中で、何かご意見やご質問がございましたら、挙手の上、お願いいたします。ご質問等ございますでしょうか。

中川（3.11 メモリアルネットワーク）：

3.11 メモリアルネットワークの中川です。ご説明ありがとうございました。変わっていくのだということが感じられて、とてもありがたいなと思います。一方で『ご活用ください』と言われたのですが、そもそもどのように活用すればいいのか、その窓口や方法が開かれているのかが分からなくて、例えば『こういう窓口でこの投稿に入れてくださったらそれを掲載します』といったことは、実はコンソーシアムを設立した時からできたはずだと思うのです。それを今『活用ください』と言うのであれば、例えば『いまを発信！復興みやぎ』の SNS にこういう情報だったら LINE 等に載せられますからこれをください、といった具体的な活用方法を、先ほどご説明いただいた 3 行・100 文字以内でいただければ発信できますというような形で提示していただけると、我々も『活用ください』の次の一歩が進めるので、もしよければ具体的な方法を教えていただきたかったなというのが 1 点あります。あと、そもそも論ですけども、この後にある今後の方向性や、そもそも我々はここで何ができるのかというところが、先に説明があってから情報の話になると思っております。やはり宮城県さんが何をされるのか、コンソーシアムで何ができるのかというところがないまま『活用してください』と言われるよりも、私はコンソーシアムがどういう存在なのかを私どもが理解してから、このウェブサイトはどう関わられるかをやった方がいいのかなと思っております。ちょっと共有です。これは他の団体さんからも、今日は 1 から何をしてもらうのか、宮城県と話し合うと聞いているので、この情報発信という個別のお話ではなく、そもそも我々ここの場は何なのだというところをご説明いただく方がいいのかなと思っております。順番はお任せしますが、そこも含めて、だからこそこのようにコンソーシアムの皆様に関わってくださいというのを、後からご説明いただけるとより分かりやすいのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

今の内容を要約しますと、順番を変えて話し合うべきだということでしょうか？

中川（3.11 メモリアルネットワーク）： 後で戻っていただいても大丈夫です。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）： それでは他のご意見ございますでしょうか。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

なんか同じ人間ばかり喋っていてあれですけど、資料１の２、ホームページの構築について、まだ触れていないですね。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

あ、そうですね。資料１の２ですね。すいません。では資料１の２『ポータルサイト構築の検討』をご覧ください。昨年までいただいております情報発信としてホームページが必要であるということで、県の方で、県の中のCMSというもののの中にページを構築するのが良いか、あるいは外部サーバーという形で構築するのが良いかという、２パターンの構築方法があると考えております。CMS内の場合、運営・更新を職員で行いますので、それほど時間的な部分での負担はないかなと。ただ、初期の構築費用として、ホームページの委託で見積もりをとったところ、約400万円。ランニングに関しては、基本的には県のサーバーの中となりますので不要となります。今後の構築の手続き見込みとしましては、令和8年度に予算協議をしまして、来年度早々に着手・構築をして、来年度中に運用開始を考えております。県のサーバーではなく外部サーバーに構築する場合ですが、業者に委託する可能性を考えております。こちらは初期の構築ということで、ホームページの仕組み作りやデザインを含めて約800万円、サーバーやセキュリティの部分でのランニング費用は年間約300万円かかります。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

ありがとうございます。これを調べていただいたらこれくらいの金額になったということですね。基本的には、昨年お話しした際には、外部サーバーでホームページを作るとお聞きしていましたが、実質1年半くらいで構築できそうだという感じでよろしいでしょうか？

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

そうですね。昨年度からご意見をいただいておりますので、仕組みとしては、昨年度から予算を持っている部局の方と話を進めているということで、去年から含めて大体3年程度を見込んでおります。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

はい、これはとりあえず今日の情報発信部会で話させていただけるということでよろしいでしょうか。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

はい、ありがとうございます。他に何かご質問やご意見などはございますでしょうか。よろしければ、情報発信部会の方でどなたかご発言などいかがでしょうか。よろしいですか。

では、次に進めさせていただきます。では、次の議題、コンソーシアムの今後の方向性についてに入らせていただきます。資料2をご覧ください。まず、前回までの振り返りなのですが、令和7年度につきましては、情報発信部会、環境整備部会、連携促進部会の3つの部会を中心に、合計9回の会議を実施しております。情報発信部会ではホームページの新規作成に向けた検討、環境整備部会では会員が意見交換できる環境づくり、連携促進部会では相互研修の実施に向けた検討を進めてきました。また、震災伝承未来フォーラムでは、コンソーシアムの概要を紹介するポスター展示を行うとともに、県主催による発表プログラムを実施いたしまして、会員の皆様にもご協力いただいております。改めて感謝申し上げます。スライド3ですが、令和7年度12月19日に予定しておりました第2回全体会議については、開催を中止しております。理由といたしましては、今後のコンソーシアムの方向性や全体会のあり方について、事務局として改めて整理する必要があると判断したためです。具体的に上がった様々なアイデアや事業について、コンソーシアムの会員の皆様が何を主体的に担っていただくか、県が何をを行うかが明確にできておりませんでした。また、県においても、各伝承団体の皆様と個別にお話しする機会が少なく、それぞれの考えを十分に把握できていないという課題もございました。こうした課題に対する対応といたしまして、まず事業化については県が主体となって企画調整を行う方法を検討しており

ます。その上で、専門的な知識が必要な場面では、専門家の皆様と適宜打ち合わせを行いながら進めること、また全体会において進捗状況を共有していくことを考えております。さらに、コンソーシアムのあり方についても、現在会員の皆様への個別ヒアリングを進めているところであり、皆様のご意見を踏まえながら検討を進めております。なお、まだ訪問ができていない団体につきましても、後ほどご訪問させていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。個別ヒアリングでいただいた、現時点でのご意見を紹介します。まず、部会の再編については肯定的なお考えの方が多いです。一方で、部会自体が必ずしも必要ではないのではないかというお考えも相当数ございます。また、相互研修などの事業を県で進めることについては、肯定的なお考えの方が多いです。コンソーシアムに求める役割については意見が分かれており、集まること自体に価値があるというご意見と、集まる以上は具体的な成果につなげるべきというご意見をいただいております。なお、県のホームページでコンソーシアムの活動や会議内容を公表することについては、肯定的なお考えをお持ちの団体様が多かったです。また、昨年中には情報発信部会の代表メンバーの方々が県庁にお越しくださいませして、ホームページの作成について意見交換を行うとともに、今のやり方で活動を続けていくのは困難ではないかというご意見もいただいております。続いて、今後の方向性についてご説明します。課題意識としましては、まず会員の皆様はそれぞれ、本来の業務や活動を抱える限られた時間の中で、コンソーシアムの活動にご協力をいただいております。そのため、複数課題を同時並行で進めることが難しいという特徴がございます。現在は伝承の方針に沿って3つの部会を設置しておりますが、その分事務局側のリソースが分散してしまうとともに、部会を横断した調整も時間を要しているところです。さらに、様々な立場の方々にご参加いただいていることは大きな強みであり、意見集約の難しさもございます。こうした課題を踏まえて、今後のコンソーシアムのあり方について、事務局としていくつかの案を整理いたしました。方向性についての検討として、5つの案をご提案させていただきます。1つ目はプロジェクトチーム方式です。ホームページ作成や相互研修など、具体的なテーマごとに有志によるチームを立ち上げ活動する方法です。2つ目は、県が企画立案を行う方式です。会議でいただいた意見を踏まえながら事務局が事業を企画し、会員の皆様から専門的な助言をいただく形です。3つ目は、現在の部会を再編する方式です。外部への情報発信に関する部会と、内部の連携に関する部会の2つに再編する方法です。4つ目は、プロジェクトチーム方式と県が企画を立案する方式を組み合わせる案です。5つ目は、県が企画を立案する方式と部会再編を組み合わせる案となっております。次に、それぞれの案のメリットと課題を整理しております。現状維持や部会再編は、会員の皆様が能動的に活動に関わりやすいというメリットがございます。プロジェクトチーム方式や県が企画立案を行う方式につきましても、具体的な成果を出しやすいというメリットはありますが、会員の皆様の主体性が限定されるという可能性もございます。今後のコンソーシアムの方向性といたしまして、検討書事業化にあたっての会員の皆様の負担や、意見集約の必要性から、案4の『プロジェクトチーム方式と県企画立案方式を組み合わせる案』が妥当ではないかと考えております。ご提案させていただいております内容につきましては、今月中に事務局の方から全員へ書面にて意見照会を行いまして、その結果に基づいて来月、今後の方針を固めさせていただきたいと考えております。今後、方針をご提示する際には、同じく書面にして皆様へご案内する形を取らせていただければと思います。これまでのご説明に関して、ご意見やご質問がございましたら、挙手の上、ご発言いただければと思います。

石森（3.11 伝承ロード推進機構）：

ご説明ありがとうございました。県が主体になって進めるというのを検討されているとのことで、それは方向性として良いなと私は思っております。やはり県が動いていただきますと予算がつくというメリットもありますし、県自体がなくなるということもないので、継続性というのもあります。そういった意味ではとても良いなと思っておりました。今後の方向性ということで県からの提案の中で、私の勉強不足かもしれませんが、プロジェクトチームと部会の違いは何でしょうか。結局やることが一緒なのかなという気がいたします。2つの部会になるか、あるいはプロジェクトチームも例で見れば2つなので、こういった違いがあるのか、具体的にお話しいただけるとありがたいです。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 夏目）：

説明します。例えば今、情報発信部会の中でホームページの作成という議題があったり、他にも情報発信に関して様々な議題が出てくることがあると思うのですが、プロジェクトチームというのは、その中でも特定の議題について事業化や進捗を進めていくというようなことをイメージしていただければと思います。情報発信部会の中で、ホームページを作っていこうと、ある程度意見が集約され、意見の合意ができたと思うのですが、それをより具体化・実現化していくためのプロジェクトチームというような役割をイメージしていただければと思います。部会ですと、現在 10 以上の団体が入っていらっしゃるのですが、プロジェクトチームはもう少し小規模なメンバーで、よりコンパクトに活動しやすい単位、事業を進めていきやすい単位で、規模としても部会に比べると小規模なものをイメージしていただければと思います。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

補足の説明となりますが、これまでの部会活動ですと、やはり様々な意見が出すぎて、なかなか集約が難しかったという課題がございました。それをすべて取りまとめていくというよりも、ある程度の意見がまとまったものをより進めていくために、少数精鋭と言いますか、具体的なお話を進めていくためのプロジェクトチームを立ち上げて進めていきたいというところがございます。

石森（3.11 伝承ロード推進機構）：

ありがとうございます。そういう意見が多かったから、これに特化したプロジェクトチームを作って、有志の人たちがやるという形だという理解でよろしいでしょうか。ただそうなってくると、プロジェクトチームの少数で進めることになった場合、今まで参加していた他の皆様はどうなるのだろうかという疑問があります。プロジェクトチームも例で見ると何個か作るようなイメージになるのでしょうか。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

部会の中でこれまで発言してきた中で、『こういうものを進めていこう』というものができていると思うのですが、進めていく中でより詳細に詰めるものが必要だということであれば立ち上げますが、そこまで難しくもないもの、例えば、後ほど出てくるのですが『相互研修をしたい』ということで、県内の伝承施設を見学して、そこについて学んでみんなで意見交換をするというようなことであれば、そこまで細かい内容を詰める必要はないと思っております。例えば、どこの施設を訪問するのが皆様にとって一番参考となるかというようなアンケートを取りまして、より多くのご意見をいただいている施設を訪問するという形になりますので、より具体的に、何というか、細かいところまで意見を集約していく部分について、プロジェクトチームを立ち上げたいと考えております。簡易的なものに関しましては、アンケート等で皆様のご意見を集約して進めていきたいと考えております。

石森（3.11 伝承ロード推進機構）：

コンソーシアムという場があって、そこにプロジェクトチームに所属している人もいるというイメージでしょうか。全体的には、誰でもどこかのプロジェクトチームに入っているわけではないということですね。ありがとうございます。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

全員が必ず何かのプロジェクトチームに参画するというものではなくて、こちらの方で出た意見から、例えば専門的な知識が必要な場合、ホームページの作成などであれば、それを本業としてやっていらっしゃる企業さんもいらっしゃいますので、そういった方に意見などをいただきながら進めていきたいと考えております。他の方はいかがでしょうか。

田村（健太いのちの教室）：

すいません。田村です。少し根本的な話になって申し訳ないのですが、まず、このコンソーシアムは最終的に何を目的として活動しているのか、もう 1 回そこを聞きたいです。ここに来る人も、皆様それぞれ本業の活動を抱えていて、時間も制約されている中で集まっているので、どういう方向性を目指しながら、最終的に進めていくのか。これがないと、どれを選べばいいかも含めて進まないと思います。私はこれを望みます。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

コンソーシアムの元々の成り立ちが、多様な主体が緩やかに連携して、一丸となって震災伝承の取り組みにつなげることを目的として立ち上げたものです。しかし、皆様やはり緩やかな連携なので『横のつながりができればいい』というご意見もあります。ただ、『せっかく集まってやるのだから、やはり成果が欲しいよね』というお話もあります。県といたしましては、どちらのご意見も大切だと思っておりますので、何かしらの成果も上げつつ、ただ、縛りすぎると皆様がそもそも活動がやりにくくなってしまふというようなご意見もあったりするので、そういったことは求めておりません。ただ、横の連携ということで、それぞれの伝承団体さんの活動をつなげていくというような取り組みを、まずは進めていきたいと考えております。そのために、コンソーシアムという形で情報発信やホームページを作って、皆様の活動のご紹介をしていきたい。また、相互研修という形で、皆様がこういった形で活動されているかというところの認識を深め、『こういう風にしたらいいんじゃないか』『こういうことはどういう風にやってきたの』というような意見を共有できる場を作っていきたいと考えております。

田村（健太いのちの教室）：

もっと具体的に、例えば『よりみんなの活動を知ってもらうためにこうする』とか、あるいは県からもっと『こういう内容を広く知ってもらうために行く』とか、もっと具体的にしていれば、皆様も参加してモチベーションを高めて活動をやるんじゃないかなと私はちょっと持っております。その辺も、この間少し打ち合わせでお話したのですが、今までやっていることを 1 回なしにして、新しくやるのが 1 つの手としていいんじゃないかと、個人的には思っております。ご検討ください。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

はい、ありがとうございます。ご検討させていただきます。次は、黒澤さんお願いします。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

石森さんと田村さんのお話に関連するのですが、そもそも情報発信部会、環境整備部会、連携促進部会の 3 つの部会がありました。情報発信部会については、活動というよりは、環境整備部会と連携促進部会がやりたいと思っている活動をしっかりサポートするためのインフラを作る部会という認識でやっていたまして、これまでずっと 3 年間、仮のホームページを作ってみたり、みんなで話し合ってきた結果、『これは県さんが決断してくれないとなかなか進まないね』ということで、昨年暮れに代表メンバーで県庁にお伺いして『なんとか進めてください』とお話をしたところが、今日の話に繋がっているのだと思います。そのような意味合いでいくと、情報発信部会のホームページを作るというのは、ある程度もう代表メンバーで進められるような状態になってきたので、『プロジェクトチームでいいんじゃないでしょうか』と昨年暮れに皆様とお話ししました。それを汲み取っていただいて、こういう方向性になっているという認識でよろしいでしょうか。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：その通りです。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

なので、環境整備部会や連携促進部会の話し合いをやっていらっしゃるお二人もいらっしゃいますので、どういう方向に進みたかったかも聞いた方が、話が分かりやすいんじゃないかなと思いました。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

すいません、挙手はいただいていないのですが、それぞれ部会長を務められたお二人からもご意見をいただいてもよろしいでしょうか。

佐藤（大川伝承の会・環境整備部会長）：

環境整備部会の大川伝承の会の佐藤です。今、黒澤さんがおっしゃった通りなのですが、環境整備部会はそれぞれの活動情報をやって、『こういう課題がありますよ』『こういうのを知ってもらいたい』という話し合いをして、環境部会としてはそれをホームページで公開しようという方向性で話し合っていました。黒澤さんの方でも同じようなことをやっていたので。ですが、私がすごく思ったのは、環境部会で『こういう風にウェブで発信しようね、どういうことを紹介しようか、これは項目を決めた方がいいね』といった、話し合いそのものが良かったなということです。例えば、ガイドをする際にお金はいくら取っていますか、どういう風にしてそれを基準にすればいいのですか、それを公開した方がいいですか、といった、結構微妙なところも含めて皆様で情報交換をして、話し合いそのものが良かったなと。具体的にホームページにしようという流れでこれができているのだと思います。昨年、情報発信部会と環境整備部会それぞれが、多くの人が見られるように、アクセスできるようにした方がいいねと言った際、県ではそういったページも何もなかったので、そこで何かうやむやになってしまったところが、少しずつですが方向性というかやることと噛み合ってきたというのは、なんとなく分かります。それで、部会が再編成などになると思うのですが…はい。

堀（岩沼みんなの家・連携促進部会長）：

連携促進部会をやっております堀と申します。よろしく願いいたします。そうですね、僕らも、最初に連携促進部会で、とにかく相互に色々なことをやっていることが分からないので『相互研修を始めましょう』というのが本当に最初の部会の議題でした。ぜひ、という話になったのですが、同時に『それには各団体が何をやっているか知らないが始まらないよね』というところに入って、『じゃあそこからだね』という風に進んでいったと思っております。その、各団体がやっていることというのが、まさにホームページのようなところに繋がっていているのだろうなと思っていて、やっとその数体の情報はさっきのホームページのようなところでバツとできるようになって、後の資料に先駆けて見てしまいましたが、『ここに行ってみましょう』というようなツアーがやっとなのだなと思っております。僕にとってもあまり違和感がないというか、連携促進部会で出てきたものが、ホームページという形に一つ繋がって、さらに相互研修のようなことができるようになったなと思っております。また、コンソーシアムの緩やかなつながりの部分ですが、まさに僕などはそうですが、こういう場に来させていただいて、新幹線に乗って、在来線に乗って、めっちゃ遠かったのですが、こういうところに来る機会自体が、本当にコンソーシアムに入っているから来られるわけであって、そこも本当に、先ほど敏郎先生もおっしゃっていましたが、みんな元気な顔で会うということも含めて、緩やかなつながりがあるからこそ僕は参加できているので、僕の立場から言うと非常に有意義にさせていただいております。相互研修で他の団体のところに行きたいなという気持ちがあって、今、お話しさせていただいているような感じです。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

部会長さんたち、ありがとうございました。その他、部会活動をこれまでやってきた中で、何かご意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。

中川 (3.11 メモリアルネットワーク) :

先ほど部会についてというお話だったのですが、私の方からは、そもそも『部会長』という仕組みや規約がなく、皆様フラットな仕組みのはずだというお話をずっとさせていただいております。それについてもご質問させていただきました。コンソーシアムは、そもそも我々からの相談事をワンストップで受けるという機能のためにあると思います。それはウェブサイトにも書いてあるのですが、私どもの方から『この部会長という仕組みは違うのではないですか』とご相談として申し上げているのですが、もう1年近くご返信がないままなのです。あと、例えばですが、私が1年目の設立の時にお話をしていた中で、宮城県さんがされる施策、例えば来年度から『宮城県の取り組みを評価します』とか、そういった事業の補助金を作りますといった紹介の時に、ある自治体の職員さんが『こういうことを宮城県さんが来年度予算取りをしようとしている。コンソーシアムの一員として、それに対して意見を入れられる場になるといいね』とおっしゃっていて、それはすごくいいなと思ったのですよ。そういうコンソーシアムができることのひとつとして、ワンストップの相談が独自でできて、我々がそれに相談できるというところにも入っているはずなのですが、そういうことがまったく抜け落ちているのです。今の事務局のお話の中では、なので、先ほど田村さんが『部会というよりも1から考え直した方がいいんじゃないか』とおっしゃったのは、今部会でやっていること、話し合ってきたこと以外に、たくさんやることがあるんじゃないか、ということです。緩やかな連携と言いましても、そういった役割をやった方がいいんじゃないのというだけでも、宮城県さんにとっても、あるいは次の世代、3年後、5年後、10年後、30年後、50年後の世代にとっても、すごく意味があることがホームページ以外にもあると思うのですよ。そういう話ができなくなったら意味がないので、やはり1からちゃんと話す。それは先ほど目的として、田村さんがおっしゃった『もっと具体的な話』というのを、たくさんあることを出してほしいのです。部会ではなく、結論として部会や部会長というのはなかったはずなので、もう1回ちゃんと過去の資料を探していただいたら、色々な良い意見があったので、そこから作り上げるのはいかがですか、というのが1点目。それから2点目、この『プロジェクトチーム』と言って、石森さんの質問に近いのですが、要はホームページの議論の時に我々は何もできないのだということを思い知ったのです。結局『宮城県の決断をいただかない』と黒澤さんは表現されましたが、我々が話しても何もありません。会員もいないし、議決権もないですし、相談することしかできない枠組みなのです。だから『プロジェクトチーム』という名前は我々には持てなくて、宮城県さんが持つものに対して、我々が少し入らせていただくという形しかないので、プロジェクトチームと書かれるのであれば、我々に何ができるのか、どんな予算が決められるのか、といったことを明確にしてほしいのです。先ほどの、例えば自治体さんの『こういうのをやれる宮城県さんの予算に対して意見を入れる機会を作ろうよ』というのはなくなっているのですよ。これまでも私も色々意見を言いましたが、なくなっているので、このコンソーシアムの会議で、意見として何が通るのかというのを、しっかりと書いていただかないと、プロジェクトチームと書いてあっても、実は議決権も何も、決めることもできない、動きもできない、ということになりかねませんので、ぜひその明確化をしてほしいというのが2点目です。よろしくお願いいたします。

事務局 (宮城県復興支援・伝承課 渡邊) :

すいません。今のご質問を要約しますと、部会がなくなったら議論ができないということを危惧されているということでしょうか。要約してご質問いただいてもよろしいですか。

中川 (3.11 メモリアルネットワーク) :

2つの要点がございます。これまで部会以外にもたくさんの意見が、1年目のワークショップなどの記録に、県には残っていると思います。ホームページ以外にもたくさんの良いアイデアが出てきました。本来としてやるべきこと、未来の伝承に向けてやるべきことについて、1回ちゃんとこの部会という、私は今言っておきますが、3部会に分かれてどうこうというレベルではなく、みんなで何をすべきかも1回ちゃんと話し合うべきなのではないでしょうか。宮城県さんはそれを洗い直してもらいたいですし、私たちの側も、ホームページはもちろんやっていただいた方がいいのですが、例えば環境整備部会で

『若者の育成』などを話していたと思います。では、どのような若者へのサポートをするのかといったことも話せるようにしないといけない。田村さんの意見と同様に、部会という形ではなく、1回全部洗い直した方がいいのではないのかというのが1点目。そして2点目、このプロジェクトチームと書いてありますが、普通は権限や予算、事業があってプロジェクトチームですが、我々には今何もありません。私たちは県の公募要領に沿って応募して、コンソーシアムと呼ばれたら行きます、というものでしかないで、民間企業のプロジェクトチームのようなものではありません。ですから、プロジェクトチームという名前ではなく、呼ばれたら意見をさせていただく係くらいでしかありません。それが事実ですので、プロジェクトチームという名前を見直した方がいいですし、権限や役割を持たせた方がいい。この5つの案にプロジェクトチームと書いてありますが、私はそもそも何もできないチームだと思っているので、プロジェクトチームと言うのであれば、役割を明記して、皆様に説明してほしいということです。それでよろしいでしょうか。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

これまで話し合ってきた課題が、今進んでいるホームページなどだけではなく、他にも課題が色々あるのだから、それらについて話していくべきだということが1つでよろしいでしょうか。

中川（3.11 メモリアルネットワーク）：

違います。課題ではなく、目的に対してどう達成していくかについて色々な意見があったので、ホームページありき、この部会ありきではなく、考え直しましょうということです。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

県からの提案は、あくまで1、2、3、4、5があるということですよね。プロジェクトチームと全体会みたいな、そういうイメージですか。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）： はい。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

案2は、全体会しかなくて、企画は全部県が立てるとのことですかね。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）： はい。そうです。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

案3は、3部会を、情報発信、ホームページを作るインフラのようなものだから、2つに再編成しようという話ですよ。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

はい。全体会がないと思われるということですか？全体会はあります。部会をどうするかというお話をしたいなと思っていたのですが。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

それを今から部会に分かれて話してくださいという話ですか。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

違います。県としては部会をどうしていくかというところで、今日のお話を図っているつもりだったのですが、前提が伝わっていなかったかもしれません。もう1回、一番上から丁寧に説明させていただきます。まず、全体会がある中で、全体会で出たご意見をより具体的に進めるために、これまで部会活

動を進めてきたのですが、意見の集約が難しかったという課題がございました。ですので、よりご意見を集約して進めていくために、プロジェクトチームを立ち上げるというのが1つ目の案です。これは具体的にはなってきましたが、より詳細を詰める内容が必要なものを進めるためのチームを作りたいというのが1つです。次が、全体会に出た意見を県の方で集約して、企画に関して進めていくものです。そして、部会活動は継続するけれど、先ほど黒澤さんからおっしゃっていただいたインフラ整備の方とそれ以外の活動ということで、3部会を2部会に再編する方法。あとは、プロジェクトチームでより詳細に詰めていただいて、県の方で企画するものが案4ですね。案5は、県の方で部会再編をして、データを県の方で企画立案するというものとなっております。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）： 全体会の役割は何でしょうか。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

全体会の役割としましては、例えばプロジェクトチーム方式であれば、プロジェクトチームで出た意見を『このように進めてまいります』と最終的に諮る場所となります。諮る場所だけが全体会ではなく、これまでの部会と同じように、皆様の交流の場であったり、意見を合わせたりする場です。プラットフォームとなる場です。話をしていく中で課題が出ているのであれば、その課題をどのように進めていくかというような、大きな意見を出していただいて、そこから具体的にどう進めていくかを決めていきたいと思います。今、これまで出てきている意見の中で、具体化しようとしてまだできていないので、1つずつ具体化していったって、また新しい課題を全体会で話し合って、それにどう対応していくかという形を取っていききたいと思います。

中川（3.11 メモリアルネットワーク）：

渡邊さんに今1から5まで説明いただいたのですが、我々プロジェクトチームと名乗れるようなものは何もなく、会員の役割は『3つの柱』に書かれていることを各自ができる範囲でやるということです。できる範囲の中に、県全体のことでやりましょうという想定なのかもしれませんが、結局、全体会も部会も何も決めていないじゃないですか。決議、総意を取ると言っていますが、総意もありません。我々は総意を出す場ということも求められていないのです。コンソーシアムのウェブサイトを読んでも。ですから、我々は何も権限もないと何回も繰り返しますが、プロジェクトチームではなく、宮城県がやるところに会議に入ってくださいという意味ですか。その質問にちゃんとお答えいただけるとありがたいです。もしこのままアンケートをしてどれにしますかと聞かれても、皆様判断に困ると思います。これがいったい何なのかまだ分かっていない状況なので。我々がプロジェクトチームに入るとなったら、何ができるのかということを、もう1回明確にさせていただく必要があります。それをご説明いただけますか。

佐藤（大川伝承の会・環境整備部会長）：

はい、大川伝承の会の佐藤です。私もこのコンソーシアムの最初から入って、色々な経緯を見てきているのですが、震災から10年それぞれの活動の違いや温度差もある中で、意見が出て、課題が出て、その課題や意見を『やっていきましょう』『深めましょう』『考えましょう』ということで、その1つとして部会に分けましようとなったと思うのです。部会ができた時も、情報発信と環境整備のどこが違うのかという感じで、あの時からかなり議論があって、とりあえずやってみて2、3年で見直しましょうという感覚ではありました。やはり、部会で被る部分などはあるし、それぞれ話し合いはしているのですが、全体のコンソーシアムとして何をやっていいのかという部分で見直しましょうということになっていると思うのです。多分、今の中川さんと事務局のやり取りを聞いていて、その中身をきちんと分かっている人は、ここにはいないと思います。何をしたいか分からないのです。何でもかんでもできればいいけれど、それぞれ宮城県の色々なところで活動している人たちがここに集まって、顔を合わせて、色々な情報交換の交流をするというのは大きなメリットだと思うのですが、それプラスアルファで何が

できるのかをきちんと整理していかないと、また色々な仕組みや資料が多くなるだけになってしまうのではないかと思います。せっかくこれだけ集まっていて、私はここでよく言うのですが、東日本大震災の伝承地域や伝承者はたくさんいるのです。阪神・淡路大震災などと比べ物にならないくらいの数があって、それぞれで活動しているというのが大きな力だと思って、だから緩やかな連携、緩やかな交流というのは大きなメリットですが、そうではない部分、しっかり連携をして、しっかり深めていくという部分を、この県でやれるかということですよ。色々な仕組みは、文章上や言葉の上ではできるかもしれないけれど、物理的に、あるいは気持ち的な余裕でできるかどうかということ、なかなか難しいかなと思っております。だから、先ほど中川さんが言いましたが、県がやることに向けて、私たちが意見を言ったり協力する形なのかなと思うのですが、そういうことです。俺たちが、それぞれ立ち上がって、大方盛り上げて頑張ろうという意思のもと、色々なことをやっているとか、ここで集まって何か新しいプロジェクトをやるといったイメージは、具体的には持てないでいます。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

ありがとうございます。今のお話をお聞きしまして、コンソーシアムで出た意見を実現化するために、県の方では行いたいと考えておりますので、県がやりたいプロジェクトというものに参画いただくというものではないです。

大須（石巻震災伝承の会）：

すみません。石巻震災伝承の会の会の大須です。今までの議論で、今、県のお話がありましたけれど、やっぱり主体は我々なのですね。我々が何をしたいのか。何かをしたいけれども、こういうことが課題なので県になんとかしてくれないか、ということで、例えば『情報発信が必要だね』と言ったらホームページを作りましょう。そのホームページを作るのだったら、じゃあどういふものかというのが、そのノウハウがある人や、あるいは『俺、こうしてほしいんだ』と意見を言いたい人が集まってプロジェクトチームを作って、完成させていく。もちろん、予算は県なので、県が予算をつけなければそれはできません。だから県には、そこは努力していただくという形なのだと思うのです。県が何をやりたいかではもちろんなくて、県としてもこういうことをやりたいというのはあって然るべきだと思うのですが、まず我々が何をしたいかですよ。我々自身が、県にお話ししているのは、我々はこの活動をしています、だんだん厳しい状況が起きてきている、ということです。これを維持していくためには、企業と一緒に、やはり県が企業支援をするのと一緒に、我々の活動を維持していくために、ちゃんと利益を出して経営が成り立つようなことを支援していただく、そういう支援を私は期待しているのです。そのために、我々自身も努力しなければいけないので、全体会の中で意見交換をしながら、これだけの人数で一斉に話をするのは大変なので、今日は例えば1番から10番、10番から20番、30番からその先という感じで、小グループに分かれて意見交換をして、そこから出てきたものをまとめると。次の時は、部会という形ではなくて、メンバーをシャッフルして『この間はこちらの人と話していないので、今日はこちらの皆さんと話したい』という形で、小さいグループを作って、メンバーを入れ替えながら話をしてしていく。その中から出てきたものを、ではプロジェクトとして実現しようという形が良いのではないかと私は思っています。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）： ありがとうございます。

高橋（東北えびす）：

一般社団法人東北えびすの高橋と申します。私は昨年から入らせていただいたので、分からないことばかりで、何か失礼なことがあったらすいません。今聞いていて思ったのですが、皆様ご自身の団体での伝承活動や企画もある中で、例えばここの何かのプロジェクトで、『私は SNS が得意なので、じゃあ私が Instagram をやります』となって活動することになったとして、やりましょうと3、4人で集まったとしても、正直な話、そこを全力でボランティアでやるのはすごくきついなと思ってしまいます。決

定権のようなところも、結局、私たちの動きはボランティアで、自分の意思と善意でやることしかここでは関与しないのでしょうか。私は仙台市さんとも少しお仕事をさせていただいたりしているのですが、例えば子育てのことを演劇にする企画をやる時に、業務委託のような形で人を集めたり運用したりして、参加する方は無料で参加ができる、というようにしています。もし、例えばホームページなどでしたら、黒澤さんがすごく動かれて仮のホームページまで作っていらっしゃるので、前回もそうお話ししたかもしれませんが、少し予算をつけて、その小さなプロジェクトチームにホームページのことを任せってしまう、といったことはやはり絶対にできないのでしょうか。私たちが何かをここでやる時は、必ずボランティアというか、無償という形でしかないのでしょうか。メインでお聞きしたかった点です。ホームページを例えば、業者選定などは最終的に県の方と相談になると思うのですが、そのやり取りやホームページをどう構成していくかといったことを、県の方がやられるよりも、ずっと伝承に関わっている方がメインに立って、ホームページが得意な方何人かでやれたら早いのかなと私は思ってしまいました。その時に、それを『ボランティアでやってくださいね』と言うと、すごく大変になってしまいますよね。ですので、そこに少し、運営予算というか、お給料を出すというよりは、運営予算のような形でできないでしょうか。業務委託までいくと少し難しいのかもしれませんが。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

例えば、県庁に3人くらい行って1日漬けて作業をしたら、日当や交通費が出ないんですかといったお話ですよ。

高橋（東北えびす）：

そうです。プロジェクトチームに予算がちょっとでもつくのと、また違うんじゃないかなと思ったのですが。コンソーシアムの予算がどのくらいあるのか、私は分かっていないのですが、そこを小さなプロジェクトでやることに充てられないのかなと。それでしたら得意分野であったり、例えばツアーを組むとなったら、ツアーを運営する予算が出てくるじゃないですか。バス会社を手配したり。そういうのを『思いがあるのだから自分たちでやってね』という感じだと、やはり苦しいのかなと。少しそういった予算があつたりすると、『この予算内だったらこのくらいのことができるね』とか、『今年は予算このくらいだけど、来年にも続けていきたいね』『このツアーはぜひ続けていこう、意義もあったね、また頑張ろう』といったことに繋がりますよと思うのです。私はそこが、やはり善意と思いだけで全てを支えていくというのはちょっと大変だなと思っていて、少しそういった予算があると、プロジェクトチームに手を挙げる人が増えてくるのかなとったりもしたのですが。私のイメージでは、部会が3つあって、例えばここで特化してこれをぜひやろうとなった時に、全員10何団体で動くのは難しいので、この団体とこことここで、その中の方が中心になってやろうねとなった時に、進めていくことに少し予算がつくといった、そういったことは検討できないのでしょうか。思いはどんなにあっても予算の問題はすごく苦しいので。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

ご意見の1つとして承ります。現時点でも、後ほど出てきますバスツアーの方なのですが、意見を集約するのを県の方で行うので、そこはプロジェクトチームとしては考えていないのですが、例えばプロジェクトチームだった場合、どういう具体的な検討をするか、講師謝金を払ったり、まとめていただくことができれば、ということでもよろしいでしょうか。

高橋（東北えびす）：

はい、そうです。そうです。地域のことも、皆様の方が詳しいですし、県の方は転勤などもありますよね。ですので、変わられることもあるので。逆に、コンソーシアムのメンバーでしたら、それほど入れ替わりがあるわけではないのかなと思うので、うまく人を活用する（活用と言うとあれですが）のもいいのかなと思います。プロジェクトチームを立ち上げたり、そういったことができれば動きやすいと

思います。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

これまで出てきた意見をより具体化するにあたって、専門的な知識をご活用いただくということであれば、その仕組みづくりも必要だと思いますので、検討はさせていただければと思います。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

色々な話になっていますが、各部会ができて3年目、一応積み重ねてきた議論があった上で、そろそろ部会が厳しいなというのがあったり、情報発信部会については、基本的にはもうインフラ整備だということなので、そこを部会とするのもちょっと良くないよねというのを昨年末に訴えてきたところです。それを踏まえて、今回こういった話になっているのだと思うので、前に進める方向の話にしてほしいのですが、この後の部会というのは、どういうお話をすることになっていきますでしょうか。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

こちらに関しましては、本日、まだ部会をどうするかという最終的な決定ができない状況になっております。というのも、会員の半分に満たない出席率となっておりますので、本日はこれまでの部会の状況の共有とともに、今後の方向性についても、部会として続けていた方がいいのかというようなご意見もご検討いただければと思います。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

であれば、もう時間も過ぎていたので、部会に分かれてこの1、2、3、4、5並びに各部会の話を進めた方がいいんじゃないかと思いますが、どうでしょうか。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

では、そうしたいのですが、今手を挙げていらっしゃる方がおりますので、お待ちください。草島さん。

草島（3.11 メモリアルネットワーク）：

ちょっと話がずれているかもしれませんが、今後の方向性と言った時に、まず全体会がどんな選択肢でも必ずある、ということで大丈夫でしょうか。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：はい。

草島（3.11 メモリアルネットワーク）：

その次に整理しなければいけないのは、部会という位置づけですよね。部会自体を、3部会にするのか、2部会にするのか、それとも部会をなくしてプロジェクトチームにするのか、あるいは宮城県の方で企画立案をして部会をなくすのか、という選択肢を今話し合っているという状況ですよね。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：そうです。

草島（3.11 メモリアルネットワーク）：

ただ、そう言っておかないと、ここで組み合わせ方式と県の方で示しているけれど、極端なことを言えば、部会を残しつつプロジェクトチームを例えば組むのが良いという意見が今後部会の方で出たら、ここに出ているだけが選択肢ではないと思うのです。どういうあり方に進めたら、今後、未来に向けてよく進められるのか、皆様どう考えているのか。特定の人しか発言していない状況が続いているというのか、どうしていいか、それぞれの人が分かっていないんじゃないのかなという状況があります。ですか

ら、その時にメリットとデメリットを伝えるべきというか。ただ、部会で進めていくのは少し限界が近いので、体制を変えましょうとして出てきている現状ですよね。それで間違いありませんでしょうかという確認でした。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

はい。部会長と共に会員の方からも、部会をこのまま続けていく必要があるのか、というご意見はいただいております。

中川（3.11 メモリアルネットワーク）：

なぜ部会に分かれるのかが分からなくて。そもそも考えようと言っているのですが、私は、この中で1人1人意見を聞くというのが必須だと思います。部会に入っていない団体もたくさんいらっしゃるのですよ。その人たちの意見を、でも来なくなっていらっしゃるじゃないですか。部会に分かれた瞬間、その人たちの声を吸い上げる術がないのですよ。分かれようと言った瞬間、その人たちのことを忘れちゃうから。県全体のためにどうするかというので、私も含めてみんなが喋りすぎているので、私は今日、1人1人必ず意見を言いませんか、という話をしようとしていたのですよ。それに向けて話しましょうよ、と。それが、その前に私の質問にずっと答えていただけていない、『プロジェクトチームというけれど我々は具体的に何ができるのか』というのをまったく説明しないままに走り出して、結局、ウェブサイトはできませんとなったら、もう1回3年間同じことをさせるのはやめてほしいのです。ですので、プロジェクトチームで何ができるかの説明もないのに、それを話し合ってくださいと言われても。我々は何ができるのか、ちゃんにご説明ください。その前に分かれたって何の話し合いもできないです。全部無駄になってしまいます。この3年間を無駄にしてしまったので、それを踏まえて良いステージに行きたいという話なのですよ。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

みんなで話し合おうでしょう。全員で意見を言い合うのは2時間も3時間もかかりますよ。

中川（3.11 メモリアルネットワーク）：

回答をまず、プロジェクトチームで何をやるのかよく分からない。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

プロジェクトチームは、皆様からいただいているご意見をより具体的にするためにお話し合いをしていただくものとなっております。というのも、今、中川さんがおっしゃったように、皆さん色々なお考えをお持ちですので、それを集約するというのはかなり難しいものでございます。ですが、出てきている意見の中で『これは良いよね』となっているものに関しては進めていきたいと考えております。ですので、それを具体的に進めるためのプロジェクトチームを立ち上げたいと考えております。

中川（3.11 メモリアルネットワーク）：

宮城県さんの予算や、来年度の制度について意見交換をする場を作りたいという、私が1年目に聞いた自治体さんの意見を実現するためのプロジェクトチームを作りたいのですが、そういうのはできないのですか。部会に分かれてしまったら、そういう話はできないですね。だから、私が質問した2点について、まだお答えいただけていないのですよ。部会に分かれてしまったら、その時全部取りこぼして、その人たちはいらなくなってしまいうことになるので、改めて全体で考えたい。本当に我々が何をできるかも知らされていないのに『話してください』と言って、ずっとやはり『できなかった』となってしまうので。我々に何ができるのか、県が説明してください。それから、1人1人ご意見をいただいてから、もし部会に分かれるのであれば分かれて良いと思います。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 夏目）：

まず、部会というものが令和6年度から立ち上げられまして、これ自体は、部会という形式でまずやってみて、何かうまくいかないことがあれば見直しをかけていこうということで始めてきたものでございます。そういうことで、今現在、規約というのははっきりとは書いていないのですが、事実として部会があるというのが現実の状態でございます。その状態で、県が『規約がないから部会を一切やめましょう』ということはできませんので、そこはちゃんと皆さんに意見を聞かなければいけない。その上で、今現在、部会が解消されたわけではないので、まず今、部会がある前提となっております。ですので、本日の次第通り、全体会を開いた上で、部会でまずお話ししていただきたいと思っておりますので、お話ししていただきたいと思います。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情発信部会長）：

中川さん、部会に分かれるのが良しと誰も最初からしているわけではないし、それでもそういう条件で、みんなで全力で色々話し合ってきたり、ずっとしてきたんだよね。それ（部会の存在）を全否定しているような話になっている。どんな考えで言っているの？今見直そうという時に。だから見直そうという話をするのに、1人1人の意見を吸い上げるのに、この場で全員1人ずつ喋ればいいのですね。今から1人1人の意見を。部会に分かれて話した方が進むんじゃないですか。そうじゃないのですか。部会に入っていない状態で、主体でやっていないのに、そういう無責任なことを言わないでほしいです、はっきり言って。

草島（3.11 メモリアルネットワーク）：

ちょっと話が荒れているようですが、中川さんが先ほどから聞いている点で、回答がないと思われる点について。プロジェクトチームというのは予算や権限、役割が明確ではないんじゃないか、その部分を説明してほしいということです。中川さんの言葉に色々なものがついてしまっているから伝わっていないけれど、プロジェクトチームと言っても、ここにいる人たちの中で、県とお話ししている人は分かるけれど、プロジェクトチームの例えば予算やおお金の話が先ほど出ましたけれど、権限や役割、位置づけがよく分からないから、プロジェクトチームについてもう少し詳しく説明してほしい、ということを中川さんは繰り返し言っています。回答がないというその部分については説明がされていないのかなと思います。中川さんも少し余計な言葉をつける部分があって混乱していますが、その部分だけは答えてほしいなと思っております。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

まず、現時点で部会がございまして、部会としては尊重させていただきます。県に対するご質問に関してなのですが、予算や権限についてですが、あくまで緩やかなコンソーシアムですので、権限というところでは『これが決まったのだから絶対やれ』と言われましても、難しい部分がございまして、ですが、県としましては、団体の皆様のご意見を尊重できるように、前向きな形で進めたいと考えております。ただ、要望されたからといって全てができるというものにはなかなか該当できません。できないところもございまして、そちらについてはご理解いただければと思います。このような回答でよろしいでしょうか。

中川（3.11 メモリアルネットワーク）： やりたい事を言うだけということですね。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

そうです。やりたいことをお話しいただいて、それを実現できるものからやっていくというものでございます。

佐藤（大川伝承の会・環境整備部会長）：

やりたいことを、今日ここで色々考えて意見を出して、県を動かせばいいだけの話ですよ。我々が県を動かせばいいんですよ。そういうことでしょう。だから、そういう意味では、やはり3部会よりプロジェクトチームですよ。色々な意見を出して、『じゃあこういうプロジェクトをやっちゃおうじゃないか、こういうことをやります』と。例えば、県に『こういうので予算を出せますか』ということも含めて。そのプロジェクトを、毎回300人も400人も集められないので、できる人が3人、4人とチームを、10人くらいからチームを作ってですね、あるいはみんなで『こういうところに行ってみましょう』というような、実行委員会みたいなものを作っていくというイメージは、なんとなく分かります。具体的にどうなるかは分からないですけど。今日の部会はあるだよ、まずこの部会で最後なんだから。解散部会、そういうつもりでした。そんな感じだと思いますよ。私はそういうつもりで考えていました。『部会、ご苦労様でした』と。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

ありがとうございます。綺麗にまとめていただいて。申し訳ありません、ちょっと説明が上手くなくて。

では、次に進めさせていただきます。資料4の説明ですね。宮城県の保健福祉部の方で、東日本大震災の当時子どもだった方々を対象に、震災時に感じていたことや、成長した現在の状況などについて、インタビューや座談会を通じてお話をいただいたものをまとめたものとなっております。こちら、若い方の震災に対する考え方などの参考になると思いますので、ご活用いただければと思います。続きまして、伝承のバスツアー（相互研修）なのですが、昨年のお話し合いの中で、他の活動されている団体を参考にして、自分の団体の活動のブラッシュアップを図りたいというご意見がございました。また、伝承団体との交流を深めたいということもございますので、実際に皆様の活動を視察できる場を設けたいと考えております。こちらに関しては、後ほど、どこの施設が良くて、どういったことを学びたいと考えているかのアンケートを取らせていただきまして、意見の多い施設へ視察をさせていただき、合わせて交流もできるようなバスツアーを組みたいと考えております。また、解散した団体が1つ、まだコンソーシアムの会員として残っております。具体的には『武田の笹かまぼこ』という団体ですが、解散されたため、当方としても連絡を取ろうとしたのですが、連絡がつかない状況となっております。解散した事実はございますので、意向は確認できない状況なのですが、会員登録から消去（抹消）をさせていただきたいと思います。今後も、このように意向確認が取れない、または解散した団体に関しましては、自動的に抹消させていただく流れを取りたいと考えております。事務局からの説明は以上となります。その他、本日チラシをお配りいただきました方々、1分程度で簡単にご説明いただければと思います。配られた方で、ご説明される方は挙手をお願いいたします。阿部さんお願いします。

阿部（3.11 メモリアルネットワーク）：

すいません。1分なので、2枚配っていますが1枚だけご紹介します。『災害に向き合う教育の可能性』ということで配らせていただきました。災害と教育ということで、教育現場にどう繋げていくかというところで毎年やらせていただいております。今年は、7月30日と8月29日に開催いたします。30日の方はオンラインのみなのですが、震災直後の教育などについての共有だったり、大阪の西成で、震災をきっかけにした命の教育をやってどのような実践をしたかという共有でございますので、ぜひご参加いただきたいと思います。また、8月29日には仙台の会場もございますので、こちらも会場参加ということで、ぜひご検討ください。以上です。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

ありがとうございます。次に、閑上の記憶の丹野さんお願いします。

丹野（閑上の記憶）：

いつもお世話になっております。津波復興記念館『閑上の記憶』です。黄色のいつものパンフレットと、あとプログラムガイドブックを配らせていただきました。6月から料金が改定になり、新しい形で再出発しておりますので、皆様に配布させていただきました。この有料プログラムの他に、第1、第3日曜日の午後1時から『語り部の会』を無料で開設しています。誰でも自由に語ることもできますので、よかったらぜひ皆様もご参加ください。聞き手、語り手どちらもよろしくお願いいたします。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 渡邊）：

ありがとうございます。次に、一般社団法人東北えびすの高橋さんをお願いします。

高橋（東北えびす）：

一般社団法人東北えびすの高橋です。仙台を拠点にした演劇や朗読のイベントをやっている団体なのですが、2020年から『朗読ボイス』という、震災前の地域の様子を沿岸地域の方々にお聞きして、それを朗読劇にする企画をやっています。最初は仙台市の企画だったのですが、残念ながら2023年度で終了してしまいましたので、うちで引き継いでいます。せっかくなので、県全体でやりたいなと思って、昨年からは石巻の方でもやらせていただいております。地域の方々が、震災前のことを話してくださる、震災そのものの話ではないのかもしれないのですが、やはり震災前の地域の姿を伝えていくのがすごく良いのかなと思って、お話を聞いたり、若い方たちと一緒にその地域を回ってお話を聞いたりしています。交流をしたり、昔のことを話していただくと、すごく元気になる方が多いなと思って続けてまいりました。2026年度は、気仙沼と仙台と、もう1箇所くらいでできたらいいなと思っております。また、石巻の方は、今年度は地域の方も一緒に入っていて、創作から若い方と地域の方が一緒にやって、上演までを一緒にやろうかなと思っております。皆様の地域でも実施をご検討いただけたらすごく嬉しいなと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 夏目）：

ありがとうございました。それでは、部会ごとに移動をお願いいたします。情報発信部会につきましては、隣の会議室へ移動をお願いいたします。環境整備部会と連携促進部会につきましては、この会議室で実施いたしますので、会場準備ができるまでお待ちいただければと思います。では、ご移動をお願いいたします。

黒澤（がんばろう！石巻の会・情報発信部会長）：

HP について、「3 年後にできるかもしれない」という話から、「2 年半でできる」に変わりました。これは大きな成果として、これからしっかりと取り組めるようなプロジェクトチームになるのかはまだ分かりませんが、ただ、次の全体会がかなり先ですので、それまで話ができない、進まないのではないかとという心配もあります。不安なところを抑えつつ、突っ込みながら進めていきたいと思います。また、部会の方向性については、丹野さんから「こんなコンソーシアムはやめてしまえ」というお話もありました。それは裏返しで、皆様が集うこのような大切な場がなかなか前に進まず、メンバーが抜けていくのがもったいないという意味でお話いただきました。ですので、今後は全体会を皆様でしっかりと行っていきましょうという話。そして、全体会を中心としてそれを進めるためのプロジェクトチーム。プロジェクトチームは良いのですが、そこで決まったこと、やろうとしていることをしっかりと承認するプロセスが見えないとダメだという意見も、阿部さんからいただきました。そういった点もしっかりと取り組んでいただきたいと思います。総じて、番号で言うと、プロジェクトと県の企画を合わせた 4 番の案が良いのではないかと、という話で大体まとまりました。以上です。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 夏目）：

ありがとうございました。それでは、環境整備部会の佐藤敏郎部会長、お願いいたします。

佐藤（大川伝承の会・環境整備部会長）：

はい。今日はどうもありがとうございました。環境整備部会では、我々の活動環境について色々と話し合っただけで、お金の問題もありますし、「こういうことで悩んでいる」「心のケアも必要だ」ということを共有し、お互いに「そうそう」と共感し合えたことは非常に大きな成果であり、良かった点です。色々な意味で行き詰まってきた部分もありますが、「行き詰まっているということは、進んでいる証拠だ」という話にもなりました。進んでいるからこそ行き詰まるわけで、その課題をみんなでまたクリアしていきましょう。「道なき道ですので」という話になりました。今回のプロジェクトチームへの移行や部会の再編についても、やはりきちんとした、より良い方向に向かうためには必要だろうということになりました。また、県の方々とも意見交換をさせていただきましたが、皆様のアイデアや意見を重ね合わせて拾い上げ、次に活かすようなサイクルが必要ではないかということです。特に役所は、担当が変わったり体制が変わったりすることで、前の取り組みがリセットされてしまわないよう、積み重ねていきたいと考えております。また、今年は例えば「大川伝承の会」の活動などにも県の方々がたくさん来てくださり、ようやくお互いの活動について理解し合うことができました。そして、県の SNS に「大川伝承の会の定期会を掲載してもいいですか」と提案があり、掲載していただきました。県のホームページや SNS に掲載されることによる波及効果は計り知れません。県が考えている以上に、すごい影響があると思います。ですので、最初にもお話がありましたが、「これを掲載してほしい」「告知してほしい」という要望を県に伝えてほしいですし、県の方でもアンテナを立てて、最前線の現場に行き、「こ

の活動をうちで紹介してもいいですか」と、もっとアクティブに動いていく必要があると思います。SNS のプロジェクトチームができて良いですし、そのような可能性に満ちた話を
して、環境整備部会は解散となりました。どうもありがとうございました。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 夏目）：

ありがとうございました。それでは、連携促進部会の堀部会長、お願いいたします。

堀（岩沼みんなの家・連携促進部会長）：

はい、お世話になります。今日はどうもありがとうございました。連携促進部会では、先ほどの会でも少しお話ししましたが、3 年前に立ち上がった最初の部会において、お互いのことを知ることから始まり、3 年経って色々な取り組みが形になってきました。団体の情報はホームページに掲載するアプローチになっていますし、資料 4 にあります「伝承ツアー」は、まさに相互研修になると思います。メンバーで話し合いました結果、伝承バスツアーは県が企画するという方向性で合意し、4 番の案（全体会・プロジェクト・県の企画の組み合わせ）が一致しました。全体会での繋がりがあ、かつ、プロジェクトチームに加えて県が企画立案した「伝承ツアー」という形にぴったりはまるという意見になり、皆様合意いたしました。ツアーの内容についても色々意見交換をしましたが、ただ移動するだけでなく、ワークショップをしっかりと実施することや、震災遺構以外の小さな南の団体（私の団体も入りますが）も巡るべきではないか、気仙沼から南下して山元町まで行けたらいいのではない、懇親会は必ず開いてほしいなど、様々な意見が出て、非常に楽しみにしております。県によりますと、バスツアーは 11 月、12 月、1 月の、伝承団体が比較的落ち着く時期でありながら、寒すぎない時期に是非実施したいとのことです。このように、我々が題材としていたものが、県が企画・サポートしてくれる形でバスツアーとして実現し、形が見えてきたと思います。非常に楽しみにしております。以上です。ありがとうございました。

事務局（宮城県復興支援・伝承課 夏目）：

ありがとうございました。今後の部会の在り方につきましては、本日ご参加いただいた皆様のご意見を参考にいたしまして、今月中に全会員の皆様に書面にてお諮りさせていただきます。その結果に基づきまして、来月には方針を固めさせていただきます。それでは、本日のコンソーシアム全体会・部会を終了いたします。本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございました。

参加者一同： ありがとうございました。お疲れ様でした。